



樟徳館

定期一般公開

登録有形文化財



平成12年には、「造形の規範となり、再現が容易でないもの」として、主屋・土蔵・鎮守社・門・東塀・南塀の6点が国の登録有形文化財に登録されています。



国の登録有形文化財である樟徳館は、樟蔭学園の創立者であり材木商であった森平蔵が私邸として建築したもので、銘木をふんだんに使い、当時の最高の技術を持った職人たちに造らせたものです。外観が純和風であるのに対して、内部には和洋折衷の意匠が混在している点が特徴的で、木造建築物として再現が容易でない建物として評価されています。4年に一度の定期公開ですので、皆様是非ご覧ください。

見学のポイントを解説します

『樟徳館の魅力』

樟蔭学園監事 藤原 準二

①10:30～ ②13:30～

※説明会をご希望の方は、ヒール等のかかとのある靴はご遠慮ください

令和6年
11月9日(土)・10日(日)

午前10時～午後4時

受付は午後15:00までとさせていただきます。
(ただし、12時～13時の間は受付しておりません。)

入場無料

申込不要

場所/樟徳館

大阪府東大阪菱屋西2-4-12

交通アクセス

近鉄大阪線「長瀬」駅より、長瀬川沿いを北へ徒歩5分
近鉄奈良線「河内小阪」駅より、長瀬川沿いを南へ徒歩20分
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。



学校法人 樟蔭学園

お問い合わせ / 学校法人 樟蔭学園 学園広報課

大阪樟蔭女子大学 / 大学院
樟蔭高等学校 樟蔭中学校
大阪樟蔭女子大学附属幼稚園
TEL:06-6723-8152

樟蔭学園は、2027年創立110年。ご寄付・支援をお願いします。

周辺MAP



応接室の窓ガラス



昭和初期の技術と匠達による洗練されたガラス模様。牡丹の花をモチーフにしたエッチングを施された磨りガラスの窓で、花頭窓をイメージさせる大正ガラスを使用しています。



食堂

アールデコ調の照明が輝き、モダンな雰囲気が漂う食堂。中央の照明は、建築当初からのものです。

Shotokukan

居間は見事な和洋折衷のデザインで構成され、床には寄木で精密な模様が施されています。



洋風居間

樟蔭学園の礎を築いた森 平蔵は、明治8年に兵庫県神東郡(現・神崎郡市川町)に生まれました。16歳で大阪市内の木材商へ見習い奉公に入り、その優れた商才により僅か26歳で独立開業します。独立後は木材販売や植林業などで成功を取めると共に、木材を運搬する船舶に着目して汽船会社を設立。折からの海運ブームによって巨万の富を築くことになりました。



創立者
森 平蔵
Mori Heizo



建設のために日本全国から集められた銘木



樟徳館建築のために作られた専用の製材所での作業風景

この場所は、元々は帝国キネマ映画の長瀬撮影所があった場所ですが、昭和5年に焼失した後、森 平蔵がその跡地を入手しました。

建物の外観は全て和風となっていますが、内部には和洋折衷の意匠が混在している点に特色がみられます。またその建築にあたっては、全国各地から銘木が蒐集され、隣地には原木から製材するための専用の製材所が設けられました。木造二階建の主屋は関西で最高といわれる松普請、仏間や納戸は杉や檜の銘木で普請されるなど、大阪有数の木材業者であった森 平蔵の木に対するこだわりがひしひしと伝わって参ります。

昭和7年頃からの構想の時期に入れると、昭和14年の完成まで実に7年の歳月を費やした建物で、和洋折衷・大正モダンの香り漂う住居です。

この建物は森 平蔵が昭和35年に享年85歳で亡くなった後、遺志により樟蔭学園に寄贈され「樟徳館」と命名されました。



仏間と次の間

二つの部屋の天井をを比べると、仏間には板と並行に年輪が現れる本柱目板を、次の間は板の中央に板目が現れる中空の天井板を使用。共に希少価値の高い木取りをしています。



応接室

天井には巨大な桐の一枚板、壁には西陣綴れ織のクロスが使われています。